

令和5年度 事業報告

1 事業の概要

令和6年2月内閣府発表の月例経済報告による北海道の景気は、「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。」状況となっており、個人消費については「持ち直している」という景気動向であります。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し社会経済活動が活性化する一方で、円安による物価上昇や昨年10月から始まった消費税のインボイス制度の影響など景気の先行きには不透明感がある中で、江別市シルバー人材センターを取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

雇用情勢については、有効求人倍率は1.00倍と前年を0.08ポイント下回っているものの概ね横ばいとなっており、完全失業率も2.7%と前年と変わらないものの、製造業など業種によっては人手不足感も出てきております。そのような状況の中で、当センターの派遣事業の契約額は、前年度の「7,304万円」を「537万円」上回る「7,841万円」となりました。

一方、請負就業契約額は、前年度の「2億1,016万円」を「778万円」上回る「2億1,794万円」となり、請負と派遣を合わせた総契約額では、前年度の「2億8,320万円」を4.64%上回り「2億9,635万円」となりました。

事業目標の達成状況については、会員数では前年度の「950人」から「993人」と「43人」の増加となり、目標値である「956人」を上回りました。また、請負契約金額は、目標値「2億1,464万円」を「330万円」上回る「2億1,794万円」、派遣契約金額は、目標値「6,800万円」を「1,041万円」上回る「7,841万円」となり、請負と派遣を合わせた金額は、目標値「2億8,264万円」を「1,371万円」上回る「2億9,635万円」となりました。派遣就業延人日についても、新型コロナウイルス感染症の影響等もありましたが、目標値の「11,018人日」を「943人日」上回る「11,961人日」となりました。

以下、令和5年度の事業実施状況の詳細について、報告します。

2 事業実施状況

(1) 会員数の増強

ア 会員の拡大

全国シルバー人材センター事業協会が示した会員100万人達成計画に基づく北海道シルバー人材センター連合会の江別市会員目標956人を上回る993人を達成しました。

年 度	目標数	会 員 数
平成30年度	760人	697人
令和元年度	779人	803人
令和2年度	809人	860人
令和3年度	855人	890人
令和4年度	904人	950人
令和5年度	956人	993人

- ① チラシの新聞折込を行い、センター事業の普及啓発と新入会員の入会促進に努めました。
- ② 北海道シルバー人材センター連合会と連携した就業体験入会説明会及び就業体験を実施し、11人の新規会員が入会しました。
- ③ 隣接の新篠津村との連携により会員増に努めました。
- ④ 社会奉仕会員制度により会員の退会抑制を図りましたが、退会会員は38人になりました。

イ 社会奉仕活動の充実

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により実施困難となったものもありますが、JR駅周辺の環境美化に取り組みました。
- ② 超高齢化社会に向けて地域の高齢者を支援するゴミ出しをワンコインでの有償ボランティアとして継続しました。

事業名	開催日	場 所	参加人数
草取りボランティア	6月	野幌駅周辺	38人

(2) 就業機会の拡大

ア 請負事業の確保

(受託事業)

令和6年3月末現在

年 度	受注件数	請負延人数	契約額
平成30年度	6,315件	46,271人日	22,059万円
令和元年度	5,471件	43,308人日	20,701万円
令和2年度	5,260件	50,975人日	23,827万円
令和3年度	5,165件	48,661人日	22,497万円
令和4年度	4,698件	46,406人日	21,016万円
令和5年度	4,216件	46,360人日	21,794万円

- ① 市内企業や公共団体を訪問して就業先の掘り起こしに努めました。
- ② 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。
- ③ センター内の就業情報板の活用のほか、全会員への郵送等により迅速な情報提供に努め、新たな就業先を紹介しました。
- ④ シルバー通信の充実を図り、様々な情報を提供しました。

イ 派遣事業の拡大

企業の人手不足が拡大するなか適正就業を推進することにより、派遣事業実績は増加し、延就業人数が目標値の11,018人日を943人日上回り、契約金額も前年度の7,304万円より537万円増加の7,841万円となりました。

(派遣事業実績)

令和6年3月末現在

年 度	受注件数	派遣延人数	契約額
平成30年度	50件	12,116人日	6,474万円
令和元年度	71件	12,844人日	7,186万円
令和2年度	43件	10,446人日	6,213万円
令和3年度	56件	10,371人日	6,295万円
令和4年度	101件	11,367人日	7,304万円
令和5年度	99件	11,961人日	7,841万円

- ① 市内民間企業や行政等への訪問によって、就業先の確保に努めました。
- ② 全国シルバー人材センター事業協会及び北海道シルバー人材センター連合会と連携し、企業への派遣事業を進めました。
- ③ 地域の労働力不足を補うために、シルバー派遣事業をより一層拡大し、多様な就業機会確保に努めました。

年度別	5年度	4年度	3年度	2年度	元年度
受託事業	21,794万円	21,016万円	22,497万円	23,827万円	20,701万円
派遣事業	7,841万円	7,304万円	6,295万円	6,213万円	7,186万円
合計	29,635万円	28,321万円	28,792万円	30,040万円	27,887万円

ウ 技術・接遇等の向上

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、各種研修会等を再開しました。

講習会名	開催日	会場	参加人数
S C 視察宿泊研修会	11月20～21日	小樽市 S C	21人
会員研修会	1月19日	はやし	31人
お掃除講習会	2月21日	センター研修室	33人
公共施設等就業者研修会	2月29日	センター研修室	16人
刃物研ぎ講習会（第1回）	3月5日	センター研修室	15人
刃物研ぎ講習会（第2回）	3月12日	センター研修室	14人
いきいき美容教室	3月18日	センター研修室	19人
刃物研ぎ講習会（第3回）	3月26日	センター研修室	9人

(3) 安全就業及び適正就業の推進

ア 安全就業の徹底

傷害事故5件と損害賠償事故4件が発生しましたが、労災事故は発生しませんでした。なお、重篤事故は発生しませんでした。安全衛生委員会では、安全就業の徹底に向け、以下の5項目の対策を行いました。

- ① 安全パトロールを行い、安全意識の啓蒙と事故防止に努めました。
- ② 安全標語の募集など、安全と事故防止のための啓発に努めました。
令和5年度安全標語最優秀賞 「思い込み 思いちがいが 事故のもと」
- ③ 安全保護具の着用と機械器具の点検整備を強化し、事故防止に努めました。
- ④ 請負会員には健康診断の受診を奨励し、派遣会員には健康診断を実施しました。
- ⑤ 「団体傷害保険・総合賠償責任保険」に継続加入しました。

令和5年度事故概況

(傷害事故 5件)

(前年度 6件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	76	受託事業での野菜販売	長机の脚をたたむ際に左手小指を挟み切った
女	75	草取り作業	作業中、複数の蜂にまぶたと鼻の2か所を刺された
男	82	機械草刈作業	作業中、蜂に右手甲を刺された
男	69	機械草刈作業	作業中、蜂に右手親指の付け根を刺された
女	61	草取り作業	作業中、花壇のバラの棘が首に接触し上半身に痒みが発生した

(労災事故 0件)

(前年度 2件)

(賠償事故 4件)

(前年度 1件)

性別	年齢	仕事の内容	事故の状況
男	68	文書類集配業務	業務中、一時停止のある交差点で左から直進してきた走行車両に接触した
男	81	機械草刈作業	作業中、隣宅の基礎シート部分を刈払機で傷つけた
男	74	機械草刈作業	作業中、飛び石(碎石)により建物北側窓ガラスを破損した
男	74	機械草刈作業	作業中、飛び石(碎石)により建物南側窓ガラスを破損した

イ 適正就業の推進

- ① 法令を遵守し、高齢者に適した臨時的、短期的または軽易な就業を行うことはシルバー人材センターの基本姿勢であり、社会的な責任をもってその役割を果たしました。
- ② 企業等の発注者や会員に「適正就業ガイドライン」を活用してセンターの就業形態について周知し、理解を求めました。
- ③ 公共施設等の就業は、会員の交代又はローテーション就業により公平な就業機会の確保に努めました。

(4) 運営基盤の強化

ア 組織体制の強化

デジタル化やインボイス制度などの業務量増に対応するため臨時職員を増員して、組織体制の維持に努めました。

年度別	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
正職員数	4人	6人	6人	6人	5人
臨時職員数	6人	1人	1人	2人	9人
業務補助員数	0人	1人	1人	1人	1人

- ① 公益社団法人として、健全な運営や透明性の確保、地域社会への貢献、法令順守など認定法に基づく事業運営を行いました。
- ② 理事会の活性化を図るため北海道シルバー人材センター連合会の役員研修会に8人が出席しました。
- ③ 江別、野幌、大麻の3地区で地区懇談会を開催しました。
- ④ パソコン等情報機器の更新により事務の効率化に努めました。

イ 財政の健全化

平成27年度から始まった高齢者サポート事業補助金により安定的な運営資金が確保され、令和5年度にはデジタル化補助金が交付されました。

(補助金実績)

年度別	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
連合交付金	24,829千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円
市補助金	24,829千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円	23,339千円
村補助金	500千円	500千円	500千円	500千円	—千円
合計	50,158千円	47,178千円	47,178千円	47,178千円	46,678千円

- ① 就業の拡大により事務費を確保しました。
- ② 派遣事業の拡大により手数料を確保しました。
- ③ センター事業の趣旨に賛同する賛助会員の確保に努めました。
- ④ 最低賃金の改正に伴い配分金の改正を行い、令和5年4月から施行しました。

ウ 広報活動の強化

- ① 会員の増強や受注の拡大のために、新聞折込やチラシ配布等を継続するほか、センターホームページの充実を図りました。

- ② 会員一人ひとりが会員増強と事業拡大のために、口コミによる広報活動への取り組みを進めました。

(5) 関係機関団体等との協力連携

江別市、厚生労働省、北海道労働局、北海道、全国シルバー人材センター事業協会、北海道シルバー人材センター連合会、道内外のシルバー人材センターと連携し、事業の円滑な運営に努めたほか、隣接自治体である新篠津村と連携し、事業を進めました。